

越前塚遺跡の航空写真


越前塚遺跡

古墳時代 (1800年前～1400年前)

地面の下の古墳を発見

古墳の周りに掘った溝が残っているぞ。



 越前塚遺跡は長浜市加納町にあります。発掘調査を行った結果、弥生時代の墓(墳丘墓)や古墳の跡があわせて60基以上発見されました。

たくさんの土器が出土したほか、発見された越前塚古墳からは円筒型の埴輪が、また別の古墳からは家形の埴輪も発掘されました。

さらに後の時代である奈良時代や平安時代の建物のあとも見つかっています。

越前塚遺跡は非常に長い間に渡って使用されてきたことがわかります。

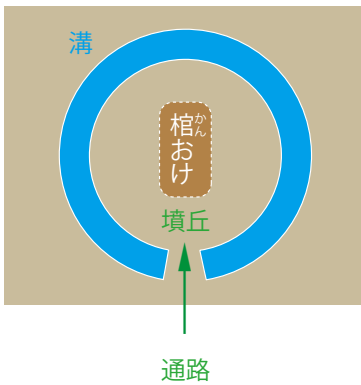


長浜市の遺跡 8
長浜市加納町

発見された古墳



左の写真は古墳の周りに掘られた溝を撮ったものです。盛り上げた土の部分はすでに削られてなくなっており、溝の部分だけが残っています。溝の形から古墳が四角形の「方墳」であったことがわかります。



右の写真は弥生時代の墓である「周溝墓」です。盛り上げた土はすでになくなっていますが、丸く掘られた溝と、一か所だけ残された通路があることがわかります。



◆ 越前塚遺跡と大塚遺跡



みぞあと 古墳の形がわかるぞ！

越前塚遺跡の近くには大塚遺跡という大きな遺跡があります。大塚遺跡は集落の跡で、たくさんの人が住んでいたのでしょう。越前塚遺跡は大塚遺跡に住んでいた人々の墓地であったと考えられています。

長い期間にわたって墓地として使われた結果、たくさんの墓が重なり合って発見されました。

はにわ 出土した土器・埴輪

◆ やよいどき はじき 弥生土器・土師器



かめ
甕

たかつき
高杯

やよいどき はじき
弥生土器と土師器は茶色またはオレンジ色の土器で、窯を使わずに外で焼かれるためにややもろいことが特徴です。弥生土器は弥生時代に、土師器は古墳時代に使われました。

時代によって、土器の形や表面の模様が変わります。

◆ すえき 須恵器

須恵器は古墳時代の中ごろである5世紀（約1500年前）に朝鮮半島から日本に伝わった土器です。窯の中で高温で焼かれるために非常に硬いこと、ロクロを使ってつくられること、また色が青っぽい灰色であることなどが特徴です。

古墳のまつりにも使われ、周囲の溝から出土しました。



つき
杯



たかつき
高杯

◆ はにわ 埴輪



えんとうはにわ
円筒埴輪



いえがたはにわ
家形埴輪

埴輪は、古墳の上に並べられた大きな土器のことです。越前塚遺跡からは円筒埴輪と家形埴輪が出土しました。

家形埴輪は復元すると大きな屋根を持ち、豪族の居館のような立派な建物をかたどったものになると考えられています。

はにわ こふん
埴輪は古墳の上にならべたのだ！



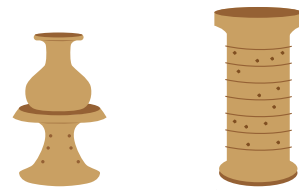
はにわ
埴輪とは何だろう？

コラム

はにわ
埴輪は人間や動物、^{たてもの}建物や道具などをかたどった^{けい}「^{しやう}形象埴輪」と、土管のような形をした「^{えんとう}円筒埴輪」にわかれます。古墳から出土する埴輪の多くは「^{えんとう}円筒埴輪」がほとんどで、「^{しやう}形象埴輪」は数少なく、大きな古墳からしか出土しないため、かなり珍しいものです。

「^{えんとう}円筒埴輪」は、元々は^{やよひ}弥生時代に使われていた、^{つぼ}壺などを乗せる台である「^{きだい}器台」「^{とくしゆ}特殊器台」が変化したものであると考えられています。神様や亡くなった人に対する^{そな}お供えものがたくさん^{なら}並んでいる様子を埴輪であらわそうとしたのでしょうか？

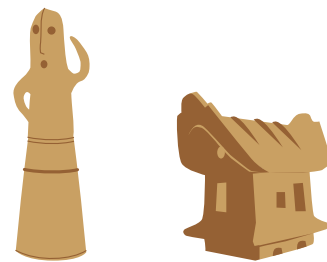
「^{しやう}形象埴輪」は、「^{えんとう}円筒埴輪」より^{おく}遅れてつくられ始めます。古墳の上に様々な種類の埴輪を置くことによって、古墳を^{こうか}豪華にしたり、お葬式などの^{ぎしき}儀式の様子をあらわしたりしたと考えられています。



きだい とくしゆきだい
器台と特殊器台



えんとう はにわ あさがおがた はにわ
円筒埴輪と朝顔形埴輪



けいしやう はにわ
形象埴輪



● 交通アクセス

公共機関：JR 北陸本線「長浜駅」下車、長浜市バス「新栄口」下車徒歩5分
車：北陸自動車道「長浜 IC」より 東へ約 500 m

● お問い合わせ

ながはましぶんかざいほご
長浜市文化財保護センター
〒526-0802 滋賀県長浜市東上坂町 981 TEL 0749-64-0395